

信州大学教職大学院の南信州サテライトキャンパスの設置について

飯田市教育委員会(学校教育課)

1. 信州大学教職大学院の概要

- 高度教職実践専攻として、「教職基盤形成コース」と「高度教育開発コース」の2コースがあり、定員は30名となっている。
- 教育学部を有し、県内の多くの教職員を養成し輩出している信州大学として、義務教育課程の教職員のさらなる資質と指導力の向上を目的に開設されているもので、現役の小中学校教職員が修学対象であり、小中学校に在職して(在職校を「拠点校」という)教鞭をとりながら院に通う形になる。
- 2年間の教育課程で、長野市の教育学部で行われる週末の集中講義が月1～2回、その他に会場を変えたり、リモート形式で週2～3日研究活動が行われる。
- 地理的条件から飯田下伊那地域からは1～2名(R1・2 伊賀良小・丸山小の2名、R3・4 喬木中1名)が修学する状況である。

2. 南信州サテライトキャンパスの設置概要

- 1) 開設時期 令和4年3月
- 2) 開設場所 飯田東中学校の空き教室を活用し、教員研究室と院生演習室を設置
(JR・高速バス・自動車のアクセスが容易であることと、南信教育事務所飯田事務所および飯田市教育委員会と近距離にあり連携が図りやすいこと、利用可能な空き教室があることから選定)
- 3) スタッフ 当面は特任教授1名が勤務し、このほかに専任教員が定期的に出張指導
- 4) 機能
 - ①教職大学院の南信州サテライトキャンパス機能
 - ・院生対象のリモート授業の受講や、研究活動への指導が行われる。
 - ②(独)教職員支援機構信州大学センター機能
 - ・教員の資質・指導力向上のための研修講座等が企画実施される。

- 5) 地域効果 以下により飯田下伊那地域の義務教育課程の教職員の資質及び指導力の向上と、そのことによる子供たちの学びの深まりへの効果が期待できる。
- ・飯田下伊那地域に勤務する教職員が教職大学院に修学しやすくなる。
 - ・飯田下伊那地域の学校現場における教育課題をとらえた研修事業が頻度高く企画実施される。
 - ・指導主事を対象にした課題研究などが日常的に行われる。
 - ・信州大学、南信教育事務所(飯田事務所)、飯伊地域の市町村教育委員会との連携を強めることができる。
 - ・演習室は、これからの新しい教室づくりのモデルとなる設備・機能が整備され、東中学校の授業や市内教員研修等での活用も可能となる。

3. 飯田市としての対応

- 1) 基本的立場 サテライトキャンパスの開設・運営に積極的に協力する。
- 2) 教室の提供 飯田東中学校の空き教室2部屋の目的外使用を許可する。
- 3) 維持管理費 応分負担を求める。
- 4) 事業連携 飯田市教育委員会との連携会議を定期的で開催する。

4. 開校記念事業

○南信州の教員研修の活性化を考えるフォーラム

- ・日 時 3月13日(日) 13:30～15:30
- ・主 催 (独)教職員支援機構信州大学センター
- ・形 式 オンライン
- ・講 師 コーディネータ; 伏木 久始 (信州大学教職大学院専攻長)
パネラー; 宮崎 樹夫 (信州大学副学長・教育学部長)
曾根原好彦(県教育委員会学びの改革支援課参事兼課長)
代田 昭久 (飯田市教育長)
山浦 貞一 (下伊那教育会全郡中心講師)